公益財団法人
京都府国際センター
Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol.90
2020年 冬号

特集

外国につながりをもつ子どもの教育 まずは課題の共有を!

外国につながりをもつ子どもとは

外国籍の子どもだけ?

日本国籍の子どもも含まれます。
両親または父母の一方が外国籍の子ども、日本人と再婚した親の連れ子として母国から来日している子どもなど、外国に何らかのルーツをもつ子どものこと。

日本国籍をもつ子どもでも、日本語能力や文化背景などが多様化しており、国籍だけで定義することができないことから「外国にルーツをもつ子ども」「多文化な背景をもつ子ども」等も使われる。

外国につながりをもつ子どもに起きていること

1 日本語指導が必要な児童生徒のうち
日本語無支援の子ども
4人に1人

京都府 25.6%

無支援	113人
日本語指導が必要な児童生徒数	442人

(※)

- 日本語指導を受けずに何か月もボディランゲージで過ごしている子ども
- 在籍学級で日本語がわからずただ座っているだけの子ども

さらに

日本語能力を測るアセスメントは十分に普及せず → 日本語指導の必要性の判断は恣意的に → 実際に指導を必要とする子どもは、調査の数字以上に存在すると言われている

※デジタル毎日2019年5月4日 「にほんでいきる」
(平成28年度の文部科学省調査が元になっています)

背景1 放っておいても子どもは自然に言葉を覚える???

子どもは集団の中にいれば自然と言葉を覚えるので友人や先生と会話ができるようになってきたらそれでよしとされる傾向がありますが、以下については注意が必要です。

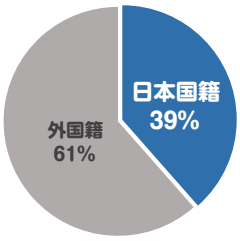
生活言語: 習得に1〜2年
日常会話で使い場面依存度が高い

学習言語: 習得に5〜7年
授業や教科書で使われる言葉で抽象度が高い
読み書きの力が重要だが**自然に習得することが難しく**計画的な指導が必要

背景2 日本人にも大変な子どもがいるのに外国人にまで手が回らない!

京都府
「日本語指導が必要な児童生徒数」

日本国籍	149人
外国籍	238人



文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)」

「日本人の子どもでも低学力、いじめ、不登校、発達障害、貧困と大変な子どもはたくさんいるのに、外国人の子どもにまで手が回らない」とよく言われますが、**国籍だけで明確に分けられない**状況にあります。
また無支援のまま放っておくと、学力低下、不登校、いじめ等につながっていく可能性を否定できません。

目次

■<特集> 外国につながりをもつ子どもの教育 ……1〜2
■<事業報告>「やさしい日本語」出前講座・フィールドトリップ ……3
■京都府国際課 国際交流員着任のご挨拶 ……3
■京都府国際センター 国際交流員からの報告 ……4
■京都府国際センターからのお知らせ ……4

2 不就学の可能性のある子ども 455人

京都府
調査対象「日本国籍を有しない者」
- ○不就学 …… 2人
- ○就学状況確認できず …… 12人
- ○住民基本台帳に登録されているが確認の対象にされていない ……441人

文部科学省「外国人の子供の就学状況等調査結果」(令和元年9月)

背景 外国人保護者に就学義務はないが…

外国人住民の定住化傾向の強まり
「永住者」10年前の 1.5倍
→ 子どもも日本で進学・就職の可能性は高まっている

↓

日本社会の産業、文化、地域活動の担い手へ

3 特別支援学級在籍率 外国籍の子ども

外国人集住地域 2倍

昨年から全国紙(※)において、外国人集住地域を対象とした民間の調査や文科省への情報公開請求等により外国籍の子どもの「特別支援学級在籍率」が、日本人の子どもの2倍という調査結果が報じられています。

京都府?

京都府における数は把握されていませんが、発達上の問題がないように思われる場合でも以下のような事情から支援学級に入級、通級している子どもは京都府にも存在します。

(※)朝日新聞デジタル2018年6月24日、デジタル毎日2019年9月1日

背景1 知能検査とIQ

ある研究において、日本人とは言語・文化背景等が異なる子どもに、それらを配慮せず、訓練を受けた通訳を介さず検査を実施した場合、IQの判定に誤りが出る可能性のあることが指摘されています。

府内の事例
- 母語、母国語、英語、日本語等の複言語環境の子ども
- 11歳で来日、母国での就学年数が2年間の子ども
- 家庭学習の習慣がなく(家に机と椅子がない子も)学んだことがなかなか定着しない子ども

検査の前に
子どもの背景について丁寧な聞き取りを!

生育歴、教育歴、母語の発達状況、言語の使用状況含む家庭環境等

背景2 日本語指導が必要な子どもの受け皿の不足

学校内に日本語学級が設置されている市町村はわずか
日本語指導を専門的に行える教員の不足

発達上の問題はないかもしれないが
日本語が理解できない状態で勉強するより…

↓

少人数の支援学級へ通級・入級
子どもにとって必要な指導内容とは異なるカリキュラム

↓

学習意欲を失い、勉強がますますわからなくなる悪循環に陥っているケースも

4 高校受験を目指す 所属のない子ども

背景1 中学校卒業後に来日

(1)母国で9年間の教育課程を修了 高校の受験資格あり

(2)母国の教育課程が9年未満 高校の受験資格なし

- **8年の教育が一区切り**という国もある
- 子どもの在留資格の許可が下りる時期や学齢期の開始年齢の違い等により来日時に**学齢期を超える場合**も

↓

9年の教育課程を満たすための中学校への編入学について

地域によっては **就学できない** こともあり、高校の受験資格が得られないまま、高校にまでたどり着けない子どももいる

※2020年度から、京都市立洛友中学校夜間部の対象は、京都市民に加え京都市への通勤者にも広がりました。

背景2 一から「一人で」日本語を勉強

悩みの多い10代後半に異国に来て、同世代の友人と出会う機会もなく、一人で日本語と教科の勉強を続けることは、周囲が想像する以上に強い精神力が必要です。
大人の都合による来日のため、日本で暮らしていく決意をするのにも大人と違い時間を要します。

背景3 支援者はボランティア

多くの場合、ボランティアが週数回の日本語と教科学習の支援を担っており、特に高齢化の進む地域では、今後もボランティアの善意だけに頼り続けることは難しい状況です。

「外国につながりをもつ子ども」当事者だけの問題?

少子高齢化、人口減少に伴い、今後も日本社会は「外国人の受け入れ」が進んでいきます。子どもたちに起きている現象は、社会の変化に制度や法律が追いついていないために生じている構造的な問題と人々の意識の問題に起因します。一人ひとりが各々の立場で、将来を担う子どもたちをこのままの状態にしておいてよいのかどうか、考えなければならない時期にきていると言えるでしょう。

子ども・保護者のための居場所づくり支援事業

当センターでは地域(京都市除く)の活動を応援します。
ご興味のある方はご相談ください。

www.kpic.or.jp/kodomo/ibasyo.html

●居場所づくりのための活動例
- 日本語学習
  (就学前の子ども対象、来日直後の子ども対象など)
- 教科学習
  (長期休みの宿題、進学のための集中学習など)
- 母語学習
  (絵本の読み聞かせ、母語教室の開催)
- 外国人保護者が主体的に参加し交流できる取り組み
- 外部講師を招いての勉強会

事業報告

「やさしい日本語」出前講座

京都府国際センターでは昨年度から、外国人とのコミュニケーションのみならず、福祉や教育といった幅広い分野での活用が期待されている「やさしい日本語」の普及に努めております。今年度は、より多くの自治体や団体に円滑に講座を開催していただけるよう、出前講座を実施しております。今年度は、7月に福知山市、11月に京田辺市で自治体職員向けに「やさしい日本語」出前講座を開催しました。また、12月には京田辺市消防職員向けに講座を開催し、各分野で少しずつ広まりを見せています。

参加者からは、「窓口に外国人が頻繁に来る部署で、日本語ができる人から全くできない人まで色々で対応に困っていましたが、日本人に対するように丁寧でなくても、わかりやすく伝えた方がよいというのがわかり、気が楽になりました。」（自治体職員）や、「学習者さん達に早速いろいろ情報を伝えられると思います。」（日本語教室関係者）などの意見が聞かれました。

自治体はもちろんのこと、市町村国際化協会・地域日本語教室等も対象にし、ご要望があれば日程、内容等を調整し、講師の派遣をいたします。

「やさしい日本語」出前講座を希望される自治体・団体様につきましては、まずは当センターまでお気軽にお問い合わせください。

フィールドトリップ

府内の外国人留学生を対象に、地域の観光資源や産業、伝統文化等の魅力にふれ、府民との相互理解や交流を深めるため、今年度は以下の3カ所で市町村国際化協会、市児童館等と協働で実施しました。

7月6日(土)～7日(日)　京丹後市

32名の留学生が22家庭にホームステイし、豊かな自然を満喫しました。金刀比羅神社では狛猫の巾着づくりもしました。

8月10日(土)～11日(日)　福知山市

13名の留学生が地元の子どもたち27名と、どろんこドッジボールや流しそうめんなどをして交流を深めました。

9月22日(日)　南丹市

32名の留学生が地元住民約30名と京都伝統工芸大学校の見学、園部町の散策、和太鼓体験を楽しみました。

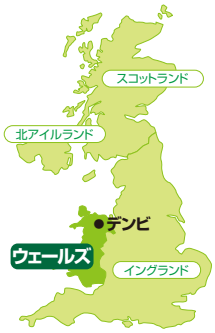
京都府国際課 国際交流員着任のご挨拶

アダム・フランクリンさん（イギリス）

みなさん、こんにちは。

私は、昨年8月から京都府国際課で国際交流員として働いているアダム・フランクリンです。英国南西部に位置しているウェールズのデンビ(Denbigh)という街で生まれ育ちました。イギリスの総人口は6,600万人ですが、ウェールズの人口はわずか300万人で、自然や山などが多く、とても静かなところです。

私が生まれ育った町からなぜ日本にやってきたかと言うと、高校を卒業した時、国内の大学ではなく海外の大学に行き、専門分野の勉強をしながら現地の言葉を学びたかったからです。子どもの時からいつもテレビやゲームなどで日本は格好いいと思っていて、大きくなったら日本に行ってみたいと思っていました。また日本には英語で学位の勉強ができ、日本語も学べる大学があることを知って、努力してようやく立命館大学の国際関係学部に入学することができました。大学での6年間は瞬く間に過ぎ去り、日本での生活は私にとって当たり前になりました。



国際交流員として選ばれ、大学時代からずっと住んでいる京都で働けるなんて感慨無量です。これから京都府の国際交流活動に精を出して、世界と京都府の架け橋としてお役に立ちたいと思います。

京都府国際センター国際交流員からの報告

八幡市での国際交流事業に参加しました

サンドラ・アラジ

2019年12月4日に八幡市の松花堂美術館別館にて、京都府連合婦人会が主催する国際交流事業に京都府国際交流員二人が招かれ、参加しました。

この国際交流事業は2部に分かれていて、前半は国際交流員によるセミナー、後半は書道体験の時間でした。セミナーは、国際課のアダム・フランクリンと私がそれぞれイギリスとフランスの文化を短く紹介した後、女性の権利を中心としたテーマについて発表しました。「日本人から見ると、西ヨーロッパの国では女性はとても自由で自立しているイメージがあるが、そのイメージは合っているか」という質問にこたえて、20世紀から現在まで、イギリスとフランスの女性の権利がどう変化してきたかを説明しました。発表後の参加者との意見交換では、職場での男女間の待遇の違いや家庭での家事分担について、質問がたくさんありました。残念ながら、世界的にも性差別をなくすにはまだ道のりが長いという結論でした。

セミナーの後は、書道体験をしました。国際交流員二人にとって書道は初めてだったので、会員さん達が丁寧にやり方を教えてくださいました。好きな漢字を選んで、筆を使って書きました。最後に和菓子とお茶をいただきながら、一緒に楽しい時間を過ごしました。お互いに充実した国際交流事業になったと思います。

京都府国際センターからのお知らせ

●外国人住民向け生活相談窓口

相談無料

受付時間: 10:00～17:00（休館日を除く）
専用ダイヤル: **075-343-9666**
対応言語: 日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語
内　容: 在留資格、福祉、医療、雇用、出産・子育て・子どもの教育など、暮らしに関する困り事を気軽にご相談いただけます。
詳細➡https://www.kpic.or.jp/seikatsujoho/seikatsusoudan.html

●SDGs京都ダイバーシティ・フォーラム

日　時: 2020年3月18日(水)　14:00～16:30
場　所: メルパルク京都5階 会議室A
定　員: 100名
参加費: 無料（事前申込要）
主　催: (公財) 京都府国際センター
　　京都府男女共同参画センター（らら京都）
詳細➡ http://www.kyoto-womensc.jp/

～賛助会員を募集しています～

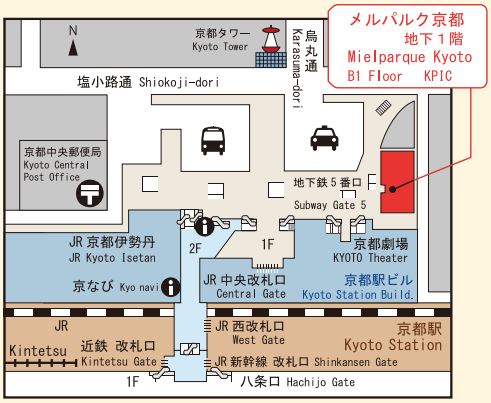
当センターが実施する様々な地域国際化事業や団体運営の財源に充てるため、趣旨にご賛同いただける皆さまを対象に賛助会員を募集しています。

【会　　費】個人会員／1口年額　3,000円（1口以上）
　　団体会員／1口年額 10,000円（1口以上）
【入会方法】・受付窓口で直接お申し込み
　　・電話、郵便、FAXで入会申込書をご請求の上、お申し込み
【特　　典】・当センター内スペース（有料）を会員料金でご利用いただけます。（団体会員）
　　・当センター各種講座等に優先してご参加いただけます。
　　・他団体との提携による特典をご用意しています。

パスポート写真撮影のご案内

収益事業として、パスポート用の写真撮影を行っています。

【場　　所】京都駅ビル8階
　　（京都府旅券事務所の隣に併設）
【営業時間】月曜日～金曜日　9:00～16:30
　　（旅券申請受付時間と同じです）
【撮影料金(税込)】
　　2枚 1,320円／4枚 1,980円
【お問い合わせ】
　　TEL 075-342-5002



公益財団法人京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F（JR京都駅前 北口東側（京都劇場側））

Tel : 075-342-5000

Fax : 075-342-5050　E-mail: main@kpic.or.jp
https://www.kpic.or.jp/
facebook https://www.facebook.com/kpic.kyoto

開館時間／午前10時～午後6時
休館日／毎月第2・第4火曜日、祝日、年末年始（12/29 ～ 1/3）

公益財団法人京都府国際センター NEWS　Winter 2020 冬号 第90号
編集・発行／公益財団法人 京都府国際センター　Kyoto Prefectural International Center

PRINTED WITH SOY INK